非核の政府を求める石川の会　会報

非核・いしかわ

事務局
〒920-0848
金沢市京町28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替
00760-0-15689

非核の政府を求める石川の会 第二十三回総会開かれる

★みんなで取り組みましょう
◎「原発ゼロ」をめざす運動
◎核兵器禁止条約交渉求める署名運動
◎憲法改悪への動き封じる運動

六月二十五日、近江町いちば館研修室で、非核の政府を求める石川の会（略称「非核・石川の会」）の第二十三回総会が開催され、四十数名が参加しました。

議長に神田順一常任世話人を選び議事を進行。井上英夫代表世話人が開会あいさつ。石川県原水爆禁止協議会の大森定嗣代表理事、石川県原爆被災者友の会の西本多美子事務局長、日本共産党県委員会の佐藤正幸県議の各氏が来賓あいさつを行いました。

総会の決議案は森昭事務局長が行い、次の三つの課題を重視して取り組むことになりました。

① 東日本大震災被災者救援、災害復旧、「原発ゼロ」をめざす運動
② すべての国の政府に核兵器禁止条約の交渉開始を求める署名運動
③ 憲法九条の会や平和団体と協力、憲法改悪への動きを封じる運動

決議案討議の中では「非核・いしかわ」編集の補足発言（永山孝一）、「ＩＣＡＮ運動とはだしのゲン」（反核医師の会・文書発言）、自治体に「非核三原則の厳守」を求めるが「非核三原則の法制化」を請願しないのはなぜか（西本多美子）などの意見・質問が活発に出されました。

総会に先立ち、第一部で行われた市民公開講演は名古屋大学法学部教授・元金沢大学法学部教授の定形衛さんが「二十一世紀国際社会の危機と挑戦～北アフリカ・中東情勢を中心に～」を語り、好評でした。

◎定形衛さんの講演要旨は次号に掲載します。

〈訂正〉「非核・いしかわ」一五五号の脱行と正確でない記事がありました。

① 一頁下段一行目の前に次の六行を補充します。

（二面上段に続く）

非核５項目

①全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
②国是とされる非核三原則を厳守する。
③日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
④国家補償による被爆者援護法を制定する。
⑤原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

花鳥風月

箱根の山は天下の険　函谷関も物ならず……『箱根八里』（作詞・鳥居忱）▼生徒から「七面鳥」と綽名された女性教師の音楽授業は、中学校唱歌や歌曲が楽しく毎週うれしかった。何故かこの詩にわが風土を感じて身が引き締まる。一方、このところ、地球の起源・生成を嫌がうえにも思い知らされ、地震と災害に身を震わせる▼つい五十年前までは常識でもあった都市と農村、市街と田園の美しい風景が、日常の視界から失われてしまい、今では景観法（平成十六年）が制定されながら、能登や白山麓ばかりか金沢市街にも「限界集落」がしのびよって、暮らしに暗雲が垂れ込んでいる▼また、「保険あって介護なき」状況に直面して、「こんな国にするつもりはなかった」と述懐したのは金沢出身の元閣僚であったと聞くが、そんな為政者を生んできたのは県民の責任ともいえる。まして、「みたび許すまじ」との誓いにも背く原発「安全神話」を今も振りまく政治家は、「神の国」発言をも連想させる▼過日、『非核・いしかわ』編集会議は、硬い印象になりがちな会報誌面に、持ち回りコラムを掲載することにした。話題は幅ひろく、会員諸氏のご登場を切に願いたい。（こ）

（一面中段から）
中段の最終行「……危険性を指摘してきました。」に続けて、下段の一行目の前に

原発の技術は未完成で暴走事故は制御できないことを訴え続けてきました。
原発の危険を無視し、無謀な原発推進政策を取り続けてきた政府と東京電力の責任は重大で賠償の責任があります。
大企業は利益を優先、政府も大企業も

を挿入し、原発の《安全神話》を流し続け、につなげる。

②三頁上段
(2)六市八町（七〇％）の市長・町長は平和市長会議に参加しています。を
三市二町（二五％）の市長・町長は平和市長会議に参加しています。
○珠洲市、七尾市、金沢市
○内灘町、野々市町
に訂正します。

本紙前号（一五五号）掲載の内容は平和市長会議のホームページから取り寄せて発表しましたが再度確認したところ、今回の三市二町が正しいことが分かりました。
以上二件を加筆・訂正しお詫びします。

非核・石川の会会員の皆さんへ

「核兵器全面禁止のアピール」署名と「原発からの撤退」「志賀原発総点検とエネルギー政策転換を求める」署名を

非核・石川の会常任世話人会

非核、平和、国民の命と暮らしを守るご活躍に敬意を表します。
昨年五月のＮＰＴ（核拡散防止条約）再検討会議では一八九の参加国が一致して「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことに合意しました。
そして、その枠組みを確立するための特別の努力をすべての加盟国に義務付けました。
ＮＰＴ再検討会議以降も、秋の国連総会で「核兵器禁止条約の締結に向けた」交渉の開始を求める決議が採択され、今年五月の非同盟諸国外相会議では核兵器廃絶への道筋を定める会議の開催に努力すると表明されるなど、世界の核兵器廃絶を求める世論は高まっています。
今年五月から取り組んでいる「核兵器全面禁止のアピール」署名は、藩基文国連事務総長らも熱い支持を寄せています。
石川県では、油野和一郎かほく市長、粟貴章野々市町長、石川宣雄穴水町長、泉谷満寿裕珠洲市長、小泉勝志賀町長、杉本栄蔵中能登町長、津田達宝達志水町長、八十出泰成内灘町長ら八首長。
大林吉正七尾市議会議長、坂井毅川北町議会議長、坂井幸雄中能登町議会議長、杉本成一かほく市議会議長、久田良平能登町議会議長、藤井敬一羽咋市議会議長、谷口正一元津幡町議会議長、田中正文元志賀町議会議長、西野昇吾元川北町議会議長など九名の現・元議長が署名されています。
核兵器に固執する核保有国の態度を変えさせ、唯一の被爆国の日本政府を核兵器全面禁止の先頭に立たせるためにも、大いに署名を広めることが今、私たちに求められています

◇　◇　◇

東日本大震災に続く東京電力福島第一原発の大事故は、原発の危険性を国民の前に事実をもって明らかにしました。現在の原発の技術は未完成できわめて危険なものです。原発は莫大な放射性物質を抱えていますが、それをどんな事態がおきても閉じ込めておく完全な技術はありません。
世界有数の地震・津波国であるわが国が原発の「安全神話」から脱却しエネルギー政策を抜本的に転換することが求められています。
今、「原発ゼロ」を目ざす署名運動が各界で取組まれておりますが、非核石川の会でも賛同し署名を会員の皆さんにお願いすることとしました。
ご賛同をいただけますようならご署名の上左記までご返送をお願いいたします。

〒九二〇-〇八四八　金沢市京町二八―八
石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会宛

◎恐れ入りますが郵便代のご負担お願いします。

二〇一一年国民平和大行進レポート

石川県原水爆禁止協議会　内藤晴一郎

【能登路コース】

六月十二日㈰　（輪島市は報告済みなので省略）旧宇出津駅前を一四時にスタート。近くの会館で「原発問題の学習会」があり、その参加者と十五人で能登町役場まで歩く。日曜日でしたが三人の職員の出迎えを受け、一二二筆の署名と募金が託されました。

十五時三十分、珠洲市役所を金沢からの五人で出発。十六時からスーパーマーケット「シーサイド」で署名行動。

野球部の高校生が、「核兵器廃絶に賛成です。家族、部員、クラスメートに署名をしてもらうために、署名用紙をください」といって署名用紙を持ち帰りました。

十三日㈪　十時、穴水駅を六人で行進。穴水町役場では副町長ら八人の出迎えがありました。

十三時に十五人で高浜バス停をスタートし、しっかりと三十分行進する。志賀町役場では十人の出迎えがあり、「非核自治体を宣言した町として、核兵器完全禁止の声を挙げ続ける」の町長メッセージは心強かった。

平和の歌を歌い十五時二十人が中能登町役場へ。町長、議長はじめ三十人の出迎えがあり、一同感激。町のケーブルテレビが行進とセレモニーを撮影していました。

十八時、七尾市役所前で出発式。地元実行委の青年の司会で始まり、市長メッセージの代読、県宗平協理事長の河﨑俊栄さんが「結成三年目だが、『祈りから行動へ』、と全国の仲間が各コースを歩いている」とあいさつ。四十人が元気よくシュプレヒコールしながら市内を行進。

十五日㈫　宝達志水町役場は出迎えがありませんでした。総務課長がお休みで、参事の挨拶がありました。

十八時から羽咋市役所前で出発式。七十人ほどが参加。副市長ら三人が出席。市長メッセージを披露。商店街をパレードし、ティッシュや風船を配り、事前に配布してあった署名や折りヅルを頂きました。

十七日㈮　内灘町役場で出発式。町長、議長はじめ町の幹部職員勢ぞろいで三十名が参加。はじめに新婦人のうたごえサークルがギターの伴奏で三曲歌いました。町長の挨拶は町の歴史・内灘闘争に触れ、脱原発、自然エネルギーへの転換を表明し、圧巻でした。

【加賀路コース】

十八日㈯　十二時、県境の九折で富山県行進団からの引き継式。県原水協の大森会長をはじめ、各団体から六十人が参加。大阪から視覚障害者大坂九条の会の青年が飛び入りで参加した。光現寺で昼食。

中津幡で休憩し、署名活動に入りました。祭りの参加者にも署名を呼びかけ、四十八筆の署名が託されました。津幡町役場では日曜日でしたが、八人の職員の出迎えをうけ、多くの署名と、募金をいただきました。

十九日㈰　本津幡駅を十五人で出発。松並木が当時の面影を残す旧北国街道を歩き森本駅へ向かう。途中の花園小学校付近で休憩。台湾でダム建設に関わった八田与一氏の生家を見学。

十四時から卯辰山の「平和の子ら像」前で小集会。自己紹介を兼ねて平和への思いをそれぞれが発言。佐藤県議があいさつの中で「初めて県議会議長から協賛金を預かった」こと報告がありました。

金沢市役所まで、宗教者の打ち鳴らすウチワ太鼓が勇気づけてくれました。

二十日㈪　森本駅～城北クリニックのコース。蒸し暑い中、二十人が行進。神谷内地内で署名行動に入

る。事前にチラシを配布してあったが、留守宅が多く回収は少なかった。東金沢駅口で民医連職員らが合流し、一気に平均年齢が若返った感じだ。城北クリニック玄関前での集会には、職員・利用者など大勢が参加してくれました。今年の原水禁世界大会に参加する二人の女性が決意を述べました。

夜、三〇〇人を超す人たちが集まり、金沢市役所前で出発集会。全員で「青い空」など三曲を合唱。内藤事務局長が輪島市から始まった県内行進の経過を報告。山野之義市長メッセージを披露。法衣をまとった牧師さん家族、ピースチャリのメンバー、生協のグループがお揃いのTシャツで参加。ろうそくを灯して途中参加する親子連れもあり、二〇〇メートルの大デモンストレーションになりました。

二十一日㈭　有松・貴船神社前からスタート。「額九条の会」などから二十人が参加。三馬商店街では事前に署名用紙が入れてあり、わざわざ出てきて手渡してくれる人もいた。休憩時間を利用して戸別訪問署名を行い四十筆余集約しました。

二十二日㈮　川北町役場では、雨を心配していただき会議室で出発式となりました。前（まえ）町長から激励の挨拶と、署名と募金をいただき、十八人が能美市へ向かう。途中の徳久で数グループに分かれ、近藤・山口議員とご一緒に署名活動に入りました。

能美市役所では雨のため庁舎ロビーで出発式。マイクで職員参加が呼びかけられ、ほぼ全員が集まってくれました。若い女性職員の司会で進んだ。四十人が寺井病院へ向かいました。

病院前には職員多数に迎えられました。ここから「ピッコロ隊」など二十人が小松へ向かいました。テープ宣伝を中断してもらい、彼女らが演奏する「明日がある」「上を向いて歩こう」を、東日本の被災者に思いを寄せ、手拍子で歌いながら行進。楽しかったし、休憩時やゴール地点ではミニコンサートで盛り上がりました。

二十三日㈯　出発前に全員で、風船を沢山膨らませて旗やうちわにつける。途中で署名に入る前、八十一歳の牧野逸子さんからみんなに「元気が出るように」と氷室饅頭をいただきました。お陰様で署名・募金は沢山集まりました。

午後、地元からの参加者の確認ができていないこともあり、加賀温泉駅出発をジャスコ前に変更。金沢や寺井病院からの参加を含め六人が加賀市役所を目指す。議会が終わった新後市議が待っていてくれました。

二十四日㈰　加賀市役所から署名・募金とペナントをいただき、市役所職員四人に見送られ二十人が引き継ぎ地の吉崎に向かう。十一時半、一〇〇人を超す福井県行進団の大きな拍手に迎えられ到着。反核・平和の思いがこもった横断幕や団体旗などを無事に引き渡すことが出来ました。

◎国民平和大行進の通し行進者の藤田克彦さんのメモ、櫻井正男さんのブログ、県原水協国民平和大行進ニュースより引用しました。

核兵器禁止条約
交渉開始を求める世論を更に大きく！

二〇一一年原水爆禁止世界大会に
尾西洋子常任世話人（前県会議員）
を派遣します！

と　き　八月七日(日)～九日(火)
ところ　長崎市民会館体育館及び文化ホール

派遣費用の募金をお願いしましたところ早速、二十六人から五万三千円が寄せられました。心からお礼を申し上げます。

引き続き派遣費用のご協力をお願いいたします。

◎代表派遣費は約十一万円です。同封の郵便振替用紙をご利用下さい。

子供たちに豊かな地球を引き継ぐために
核兵器廃絶を！
～「はだしのゲン」を若い世代に～

核戦争を防止する石川医師の会

一、ＩＣＡＮ～核兵器禁止条約の締結を求めて

今、私たちは核兵器廃絶国際キャンペーン（ＩＣＡＮ）に取り組んでいる。これは核戦争防止国際会議（ＩＰＰＮＷ）が地雷禁止条約・クラスター爆弾禁止条約の締結実現に向けたカナダ政府の主導や、市民運動の経験に学び、二〇一五年までに核兵器禁止条約の交渉を開始しようと世界中の政府と人々に呼びかけている運動である。

昨年のＮＰＴ再検討会議は「核兵器禁止条約等の検討」などの事務総長の軍縮提案に留意することを合意した。一二月の国連総会では核兵器の禁止および廃棄を定める条約の締結のための交渉を直ちに開始することを求めた決議は七〇％超の賛成を得ている。また、カナダ議会の上下院が全会一致で、核軍備全廃のためにカナダ政府がイニシャチブを発揮すること、二〇一四年に外交会議を開催するようパン・ギムン事務総長に求める決議を採択した。さらに、その予備会議を二〇一二年にオタワで開催するよう「カナダ勲章」の五五〇人の受勲者がカナダ政府に求めている。このように核兵器禁止条約の締結に向けて具体的な政府間の動きが国際的にはすすめられているが、その流れを確実に具体化していくために国際的世論づくりが不可欠できわめて重要だと考える。

二、「はだしのゲン」を小・中学校に送る運動を

核戦争を防止する石川医師の会（以下、「石川医師の会」と略）は核被害の実相を理解することが核兵器廃絶運動の原点にあると考え、被爆者の証言を聞く会、被爆の実相を理解するための映画・講演会を行ってきた。さらに、日本の若い世代に核兵器廃絶運動を引き継ぎ、広げていくための参考図書として「はだしのゲン読書運動」を提起している。

具体的には県内の小学校（二二九校）・中学校（一〇三校）へ希望に応じて贈呈し、毎年、贈呈先の生徒を対象に読後感想文を募集し、優秀作を表彰する。この取り組みをマスコミに公表して行うなどを考えている。

また、この運動は「石川医師の会」のみでなく、石川の反核・平和を愛する団体・個人の賛同の基に協力・共同の取り組みとして行い、寄贈のための資金は「石川医師の会」会員はじめ、広く県民に訴えたいと思っている。

非核の政府を求める石川の会は各自治体の非核宣言を求めてきた優れた実績がある。今、私たちは核兵器禁止条約の交渉開始を求めて、原水協が国際的に提起した「核兵器全面禁止のアピール」署名を自治体、県民に向けて取り組むとともに、次世代に核兵器廃絶の運動を引き継ぐために「はだしのゲン読書運動」を共同で取り組みたいと願っている。

命と平和の擁護が医師の責務
～被爆証言と　はだしのゲンから学ぶ～

江守道子（金沢市・歯科）

核戦争を防止する石川医師の会主催 Nuclear Abolition Day（核兵器廃絶記念日）の行事が六月五日に行われ、香林坊大和前で白衣を着た会員の医師や歯科医師が核兵器廃絶を訴える街頭キャンペーンを行いました。キャンペーンの世界同時アクションとしての開催は今年で二回目でしたが、三月一一日の東日本大震災による東京電力福島原発事故の影響か、核兵器禁止条約の制定に向けた署名活動も積極的に進めることが出来ました。

その後石川県教育会館で、広島で被爆された元金沢大学法学部教授の岩佐幹三氏の「被爆証言を聴く会」が開催されました。当時十六歳の氏は爆心地から一・二㎞で被爆しました。お母様は家の下敷きになり、せまる猛火に「早う逃げんさい」といってお祈りの言葉を唱え始めたのです。数日後、家の焼け跡の灰の中からマネキン人形にコールタールを塗って焼いたようなお母様の遺体を掘り出したそうです。また妹さんも女学校の作業中に被爆し、未だにどこで亡くなったかも分からないと言うことです。

同年五月にお父様を病気で亡くした氏は原爆孤児となり、広島市内を歩き回った為、急性放射能障害の症状に見まわれましたが、幸運にも治療により回復し現在に至っているそうです。また、国際赤十

字から派遣された医師の国際的救援要求をアメリカ占領軍は拒否しました。日本政府もこれに同調し、非人道的な原爆投下に向き合うことがなかったのです。今日、被爆者に対する政策が過小評価され、いまだに原爆症認定はわずか一％のため、原爆症認定集団訴訟となっているのを見ても国の責任放棄は明らかです。

引き続き、映画「はだしのゲン」が上映され、父と姉、弟の三人を亡くしながらも逞しく生きるゲンは、まさに岩佐幹三氏その人だと、多くの観客が感じたに違いありません。

多くの被爆者の方々が高齢のため、亡くなっている現状の中、世界で唯一の被爆国として、私たち日本人はその実態を知り、戦争の悲惨さや放射能の恐ろしさを伝える義務があります。又、先般の東日本大震災後の福島原発の事故による放射能汚染は広島・長崎に比べ、いまだ収束していない現在でも、百～三百倍といわれています。核兵器による放射能汚染と原子力発電所の放射能汚染とは、質において違うように思いがちですが、どちらも人類が開発した科学技術です。人災という点では共通しているのです。

日本人として、戦後初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士がアメリカの研究所へ招かれた折、アインシュタイン博士に会いました。彼は、湯川博士の両手を握り締めて激しく泣き出し、「原爆で何の罪もない日本人を傷つけてしまった…許して下さい。」と何度も繰り返したのです。原爆はアインシュタインが一九〇五年に発表した特殊相対性理論、$E = mc^2$という公式を基にした兵器だったのです。目の前で世界最高の科学者が肩を震わせて涙に暮れている姿を見て「人間」アインシュタインの良心に触れた彼は、学者は研究室の中が世界の全てになりがちだが、世界の平和なくして学問はないという考えに至り、以後、積極的に平和運動に取り組んでいったと聞いています。

私たち医師＆歯科医師は，科学者の一員として「命と平和」を守る責任があります。そのために、一人ひとりが何が出来るか、そして出来ることから始めようではありませんか！

《連載》対談―狂気の時代（最終回）

再びそれを繰り返さないために

……（前号からの続き）

一塚　日本軍は米英兵捕虜には捕虜の待遇に関する国際協定の適用をさすがに無視できなかった。でも日露戦争のときには捕虜の待遇にはもっと気を遣っていた。それは、外国の目が日本に注がれていたからです。第一次大戦でドイツと戦った時も同様でした。それとは対照的に、アジアに出兵した際の、アジアの人々に対する振る舞いはひどいものでした。捕まえたら殺すということは特別なことではなかった。そのような当時の写真も多く残っています。

ドイツ軍のソ連兵捕虜の取り扱いと似たりよったりということでしょう。英米兵捕虜だけは国際赤十字の目があるので、それなりに気を使ったようです。彼らにかなり虐待をした場合も秘密裡に行われました。

たとえば米軍爆撃機が撃墜され乗員がパラシュートで降りてきたところを竹やりで突き殺したとか、九大医学部で行われた米兵捕虜生体解剖事件など。それでも当時の日本側からすれば、日本国内で収容された大半の英米系兵士には捕虜としての最低の待遇を与えてやっていると思っていました。しかしながら、これも米英捕虜側からすれば国際協定の基準をはるかに下回り、つまり捕虜虐待行為であると受け止めたのです。

茹　「九大アメリカ兵人体実験」のことですが、これは極東軍事裁判B級裁判で処理されたのですが、問題は「捕虜虐待」の罪で死刑判決がでましたが、生体実験という医療倫理での裁判は全然なかったという問題が重要なのです。このことと直接関係しませんが、戦争の倫理という問題で戦友会というのがありますが、ほとんど加害者意識がないのですね。

一塚　ドイツでは現在ハーケンクロイツを公にさらすと警察沙汰になります。欧米ではネオナチはとにかく押さえこまなければ、という各国共通の認識があります。どの程度厳しいかは各国で程度の差はありますが。

永山　私の知人が昨年、新建築家技術者集団の新建学校 in 石川で『フランク・ロイド・ライトの住宅デザイン』の講演をしたあと、金沢市内を案内しているときに、北國銀行武蔵ヶ辻支店の建物を見た時の感想があります。この建物は、その後、新高輪プリンスホテルなどでも知られる村野藤吾の作品ですが、この村野の作品にはヒトラー建築の様式が採用されたりして、ドイツの芸術文化を日本に導入するという動きが当時の日本にあったとのことです。

一塚　昭和前期はヒトラーのプロパガンダの大成功もあって、当時のドイツの文化を積極的に取り入れようという気運が各界に見られました。ヒトラーも若いときは建築家志望でしたしね。

永山　明治維新以後のいわゆる西欧化というか「脱亜入欧」の洋風建築とは別のものがあるんだと思いました。

一塚　戦前戦中の日本の官製の青少年組織なども、ナチスのシステムをあきれるほど真似ています。特高や憲兵隊の捜査・尋問・諜報・防諜関係の方法論についてもドイツ治安機関からの影響はあったことでしょう。

茹　日本とドイツのファシズムの起こり方の違いからいろいろ話あったわけですが、私の直接の今の問題意識は、ドイツ医学界が日本の医学界と違って戦争中の医師・医学者のおこなった「人体実験などの医学犯罪」を真摯に反省してきたこと、一方日本の医学界がそれらの行為を「隠蔽」し、意識的に「忘却」してきたこと、の比較検討を考えてみたいと思うことです。勿論ドイツ医学界でもこの問題ではこの六五年間は紆余曲折してきたらしいのですが、その紆余曲折について、もっと話し合いたいと思います。

◇　◇　◇

「ヒトラーは一九三三年に政権掌握、その政権はわずか十二年だけでした」。

一方、バブルがハジケてから二十年。国とまちの明日を選択する岐路に差しかかっているわが日本。

――このような時期にこの対談は行われました。

話題の尽きない対談でしたが所定の時間が参りました。本日はここで終わらせて頂きました。機会があれば後編も期待されるところです。

なお、編集にあたりまして武田公子金沢大学教授にテープ起こしをお願いし、茹先生、一塚さんにはご多用中、厳密な校正を頂きました（永山孝一）。

●写真一　一九三九年頃、ナチス党のあるイベントにおいて上気した顔で街中を行進する少年たち。ドイツ少年団員、ヒトラー・ユーゲント隊員たちである。彼らの親たちも息子の「晴れ姿」を路傍で得意気に見ていたことだろう。

●写真二　一九四一年六月ドイツ軍の大部隊は電撃的にソ連領に侵攻した。不意打ちを喰らったソ連軍は防戦もままならず、緒戦だけで数十万人という大量の捕虜を出してしまった。捕らえられ、不安な顔のソ連兵捕虜。二名の女性兵士も混じっている。

●写真三　一九四二年頃、東部戦線にて　ある東欧（たぶんチェコスロバキア）の町で、「パルチザン容疑者」の市民を連行し、壁を背に立たせている。先頭の一人はもう目隠しをされている。彼らの運命については述べるまでもないであろう。

《非核平和・行事予定》

・七月二十七日㈬～八月十日㈬九時～十八時…原爆と人間展・泉野図書館
・八月一日㈪～五日㈮九時～十七時…原爆と人間展・加賀市立図書館
・八月一日㈪十八時半…原水爆禁止世界大会結団式・石川勤労者医療協会会館三階集会室
・八月四日㈭～十七日㈬…「原爆と人間展」県庁一九階展望ロビー
・八月六日㈯…広島原爆の日
・八月七日㈰十三時～十六時…横井久美子コンサート・金沢市民芸術村ミュージック工房
・八月七日㈰～九日㈫…原水爆禁止世界大会・非核石川の会より尾西洋子常任世話人を派遣（長崎）
・八月八日㈪～十二日㈮九時～十七時…原爆と人間展・松任あさがおホール
・八月九日㈫…長崎原爆の日
　十二時半　街頭署名・Mザ前
・八月九日㈫～十日㈬九時～十七時…原爆と人間展・小松市役所
・八月十二日㈮～二十六日㈮九時～十七時…原爆と人間展・金沢市京町菜の花薬局
・八月十五日㈪…終戦の日
・八月二十一日㈰十三時半～十五時…原発なくそう志賀集会『井上さとし国会報告と各分野報告』、パレード十五時～十六時・志賀町文化ホール
・八月二十一日㈰…九条の会北陸地区交流会と講演『改憲の動向と九条の会』憲法会議代表委員川村俊夫氏・富山市サンシップ
・九月一日㈭十八時…非核石川の会常任世話人会
・九月六日㈫十二時半…街頭署名・Mザ前
・九月八日㈭…安保調印の日・平和の講演会（仮題）
・九月十七日㈯十三時半…原発問題講演とパレード『原発からの撤退を』講師・原発の論客吉井英勝衆院議員・金沢歌劇座・主催石川革新懇、原発問題住民運動連絡センター、日本共産党石川県委員会
・九月二十三日（金・祝日）午後二時…石川県保険医協会「放射線被曝の実相と健康被害を考える」講師・岐阜環境医学研究所所長・医師松井英介氏・近江町いちば館四階集会室
・十月六日㈭十二時半…街頭署名・Mザ前
・十月二十二日㈯～二十三日㈰…全国学童保育連絡会総会・金沢市
・十一月九日㈬十二時半…街頭署名・Mザ前
・十一月十九日㈯…九条の会全国交流会・東京
・十一月二十五日㈮～二十七日㈰…日本平和大会・沖縄
・十二月六日㈫十二時半…核廃絶街頭署名・Mザ前
・十二月十八日㈰午後…映画「荒木栄の歌が聞こえる」を観て歌おう！うたごえの集い・金沢市民芸術村パフォーミングスクエア

《編集後記》

◎コラム「花鳥風月」。かちょうふうげつ。自然の美しい風物。「花鳥」は鑑賞の代表的な対象となり、「風月」は自然の風景の代表。花鳥風月は石川県伝統工芸の原点といえる。「美しいものを、美しい」と。「観察と景（ながめ）」そんなコラム欄になれば。
◎十四日は、瓢箪町にある浄土真宗の寺院へ墓参りに行ってきた。若きご住職には、先に法事の折、『非核・いしかわ』の会報をお渡ししておいたこともあって、是非と勧められ新刊の冊子を頂いた。――『科学の原理と人間の原理』高木仁三郎・著（金沢教務所―金沢教学研究室修了生の会―二〇一一年五月三十日発行）
　この小冊子は、関西電力美浜原子力発電所2号炉で、蒸気発生器細管の破断事故で、緊急炉心冷却装置が作動し、あわやメルトダウンの大事故の直後に行われた講演（一九九一年二月二十二日）の記録をもとに奥様である高木久仁子様の校正を経て、東日本大震災後、緊急に企画され、この二〇一一年五月三十日に刊行されたものである。
　金沢教学研究室修了生の会・中村清淳氏は、編集後記で「…この危機的状況の中にあって尚、ややもすると私達は、投げやりで全体の流れに身を任せる生き方に埋没しがちだ。
　ここで是非とも、高木先生の命をかけて伝えたかったメッセージにしっかりと耳を傾け、そのことを受け止め、決してあきらめに支配された生き方にとどまらずに、自分自身とこの世を変えていく、ほんの少しの勇気と知恵と謙虚さを取り戻したいと思う。」と述べている。
　金沢発・必読の新刊として紹介したい。（な）